

チベット語アムド方言（アムド・チベット語） の文法略述三題 ——①敬語、②叙述の助動詞「～デス」、③存在文——

安部 清哉
(タシツリン氏協力)

1 はじめに

本稿は、チベット語のアムド方言の文法に関する簡単な記述である。内容は、①敬語・謙讓語、②叙述の助動詞「～デス」、③存在文の3項目である。

アムド方言に関する研究は、日本でも近年、アジア言語の研究の深化と留学生の増加に伴い、しだいに盛んになってきているようである。しかし、日本語での研究資料は、まだ必ずしも多いといえる段階ではない。

本稿は、不十分でかつ基礎的なものであるが、本稿のようなものでも、そのデータと解説が、日本語での十分な解説ができ、かつ、極めて内省のよくきく言語感覚のよい母語話者によるものであるので、なんらかの情報を提供し得るであろうと考え、ここに報告することとした。

なお、アムド方言に関する呼称は、現在、いくつかのものが併存しているようである。

- 1、チベット語アムド方言
- 2、アムド・チベット語
- 3、チベット・アムド語

などが、ネット上等でも確認できた。本稿では、言語とその方言との関係が明示的であるという理由で、「チベット語アムド方言」を採用することとした（参考文献も参照）。

取り上げた項目がこの三題になったのは、当初、『言語学大辞典』のチベット語（ラサ方言）の記載にあわせて、アムド方言話者への聞き書きを始めたためであり、それに基礎的な存在文への聞き書きを付け足したものである。

言語情報は、母語の内省力もよく、かつ、言語学の知識もあり（日本語学専攻）、日本語での解説も自由にできるアムド方言母語話者であるタシツリン氏（学習院大学大学院文学研究科博士後期課程院生）である。（注1）

ラサ方言 zo (作る) +’nang (与える) 御作りになる
 アムド方言 shakli (御手+仕事をする) +’nang (与える) 御作りになる
 (shakli = shak (sheuk の尊敬形)+li (仕事する) によって名詞化される。)

また、名詞を謙讓語化する生産的形式もある。

	普通形	尊敬形	謙讓形
馬	’ta	ceupa	’ta ngan
(普通形	—	「普通形+ngan」)
鞍	’ga	—	’ga ngan
帽子	ver zha	sha	sha ngan
	(頭の敬語+帽子)		

他の例；

アムド方言で敬語形、謙讓形が使用されるのは、かなり限定されており、およそ次の3つの場合である。

- ①使う対象が、「活仏 (いきぼとけ)」及び僧侶の場合。(先生であっても、使用対象とはならない)
- ②公的儀式的場合、一般の人でも使用対象となることがある。例えば、結婚式における新郎新婦の両親など。また、新郎家側は、新婦家側の人々に対しては敬語を使用し、また、それらに対して自らの側には謙讓形を使用する。
- ③日常語でも「食べる」のみは、敬語「召し上がる」で使われる。

ssa (食べる)・thoug (飲む) → zhi (召し上がる)

2—(2) 叙述の助動詞「～デス」(2005/03/16 聞書)

- ①肯定表現「～です。」基本的に次のようになる。

内—— yeun は、自分のもの、話し手側のもの、
 外—— re は、聞き手、第3者側のもの、という相違がある。

- ②否定表現「否定形 ～ではありません。」

内—— yeun の場合 → meun (meun < ma yeun が融合したもの)
 外—— re (時に、ret) の場合 → ma re (ma は否定辞)

- ③疑問表現「～ですか？」

A 内——yeun bi (bi = 「か？」 疑問辞) (A ラサ方言)

外——re bi

B 内——eu yeun (eu = 「か？」 疑問時)

外——eu re

eu はイントネーションが上がる。また、硬い文語では書かない。古い時代は書かない。

文型例

1-a、 deu kyhu eu re? (eu のアクセントは上声 éu)

これ あなたの か です [これは、あなたの です か?]

2-a、 deu kyhu eu yeun?

これ あなたの か です [これは あなたの です か?]

1-b、 deu ngeu re.

これ わたしの です [これは、わたしのです。]

2-b、 deu ngeu yeun. (yeun, 自分の主張という意味合いがある。また、思い
続けている意味合いがある。)

これ わたしの です [これは、わたしの です。]

事例；これはわたしの本です。yeun、の場合、自分の本であることを一度も忘れたことがない、ずっと自分のものと思い続けている、自分のものであると主張する意味合い、などが、文脈によって、強く含まれる。

古い表現——古い表現では、疑問辞が後にあったが、いまは使われない。口語では、この言い方はいまは使われないが、文語では現在も使用する。

古い疑問接辞のいろいろ

基辞＋後置辞／母音＋疑問辞

○ + k + kam

○ + n + nam

○ + s + sam

○ + ng + ngam

○ + d + dam

○ + b + bam

3-c、眼前証拠過去（他人の動作を直接見ている）

動作主が他人の場合② ssi tang ta (ta 過去助動詞。昔は ssi までしかなかった。いまは、tang を付けないと過去にならない。)

例文 「行った」——行く gyo・行った (weu) (weu；出ている、本来、出るの意味)

- | | | | | | | |
|----|----------|-----|----|-----|------|-----------|
| a、 | 自己動作—— | 動作主 | 自分 | weu | song | nga |
| b、 | 状況証拠—— | 動作主 | 他人 | weu | song | zeug |
| c、 | 眼前証拠過去—— | 動作主 | 他人 | 眼前 | weu | — (ナン) ta |
- (行くの過去) 過去助動詞

2—(3) 存在文 (2005/10/21 聞き)

アムド方言における存在文の基本的文型は次の通りである。ラサ方言のような遠近による3形式の別はない。また、ラサ方言と同様に、「いる／ある」の区別はない。

- 1、yo keu。あります。(～に～がある。)(yo ある。keu 状態。)(文語では yo だけで「ある」の意味。)
- 2、me keu。ないです。(me ない。)
- 3、eu yo keu。ありますか。
- 4、me ka ↑? ないですか↑? (語尾上げる)
- 5、yo la tsa。(ありますよね)
- 6、me la tsa。(ありませんよね)
- 7、yo kyeu re。(あるでしょ)
- 8、yo kyeu ma re。(ないでしょ)
- 9、yo。ありますよ。(私に～がある)
- 10、me。(あるいは、me ya。)ありませんよ。
- 11、yo neu reu。あるんです。
- 12、yo neu eu reu。あるんですか。
- 13、yo ya。(あるいは、yo ya。)ありますよ。(～に～がありますよ) 自分の経験知 (1 度ないし過去に経験的に知ったこと) の情報を相手に伝える。
- 13、me ya。ありませんよ。(自分の経験によってないことを相手に伝える。)

アムド方言での基本的述部助動詞は、次の3形式である。

- 1、yo あります。

2、yo keu あります。

3、yo ne re あるんです。

また、意味的に、重要な視点は、次の2点である。

- ① 所有物の有無
- ② 存在物の有無（具体的場所における存在物の有無）

また、有無を相手に聞く場合、次の3つの視点が重要である。

- ① 単に聞く場合
- ② 相手が知っていること確信して聞く場合
- ③ 自分が知っている既知のことを（確認のため）聞く場合【知らないことを知らない人に聞く場合は①の形式がそれに該当する。】

まず、典型的な文型として、『言語学大辞典』にならい、次の文型を挙げる。

(1) 「ここにテーブルがいくつありますか？」

Q teu na cog tsi deu yo keu? (あるいは、～yo?で語尾を上げる。)

ここに テーブル が いくつ ありますか? 自分が未知の時の聞き方。

A seum yo。

3つ ある (前もって知っている答え)

(2) 「ここにテーブルがいくつありますか？」

Q deu na cog tsi deu yo keu? (あるいは、～yo?で語尾を上げる。)

ここに テーブル が いくつ ありますか? 自分は知っていて相手に確認する問い方。眼前になくてもよい。

A seum yo keu。

3つ ある。 その場で見て確認して答える場合。あるいは、未知だったことを今発見して答える場合。「seum yo」は、既知として伝える言葉である。

① yo (自分のこととしての答え。)

② yo ken (他人のこと、客観的なこととしてとらえた答え。)

(3) (タシさんの奥さんに) タシさんは、どこにいますか。

3-1 tashi kang na yo? (相手が知っていることを確信して聞く場合。知っていることを前提にして聞く場合。)

3-2 tashi kang na yo keu? 意味が2つある。

①聞き手が知っていて確認する場合。

②知っているだろうと思って聞いているが相手が知っていることを確信していない。(もしかしたら知っているだろうと思って聞く。)

(4) 「ご家族は何人ですか？」

① kyhe ka za tshang teu yo? 既に知っている人に、聞き手が未知のことを聞く。
あなた の 家[家族] いくつ ある？

(za (食べる) tshang : 1つの屋根の下に食べている巣)

×② kyhe ka za tshang teu yo keu? (非文—未知のことを聞く場合)
あなた の 家 家族 いくつ ある

聞き手が知っているのに、聞かれた方が自分の家族を知らないということが基本的にないから、おかしい文となる。まったく言えないというわけではなく、文脈によっては可能で、例えば、相手が頭が悪いなどの特殊な条件の場合、可能となる。

③ kheu tshang nga za tshang teu yo?

相手が知っていることを確信した上で聞く。自分が未知のことを、相手が知っているということをも前提として聞く。

④ kheu tshang nga za tshang teu yo keu?

彼の 家 に 家族 いくつ ある

未知を聞く場合で、意味が2つある。

ア、聞き手が未知のことを単に相手に聞く場合。(相手が知っているかどうかに関係ない。相手は知っているだろうと思いつつ聞く。)

イ、聞き手が知っていて相手に確認する場合。(相手が知っているかどうかを聞くのを目的とする。)

(5) Q wod na yeuk eu yo?

チベット には ヤク か いる

A wod na yeuk yo。

チベット には ヤク います

こちらの聞き方は、ヤクという動物を知っていて、聞き手に聞く場合。ある場所にいることを知っている、それを前提としてもう1つの場所にいることを聞いている。例えば、モンゴルにヤクがいることを知っていて、チベットにいるかどうかを聞いている場合、などに該当する。

(6) Q wod na yeuk eu yo keu?

チベット に ヤク か います

A wod na yeuk yo keu?

チベット に ヤクが います

これは、①わからないことを聞いている場合、あるいは、②既知のことを、わざと聞いている場合。

(7) wod na yeuk yo neu eu reu?

チベット には ヤク は いるのですか。

相手が知っているかどうかは関係なく聞いている場合。ヤクはチベットにはいるのですか、と聞くような場合。neu が入ると判断の意味が加わる。日本語のノダ文のような意味合いがでる。

(8) Q: am do na yeuk eu yo ?

アムド には ヤクは か います

A: am do na yeuk yo。

アムド には ヤクは います。

相手が知っていることを前提に聞く。ヤクのことは知っていて、アムドにいることを聞いている。

(9) Q: am do na yeuk eu yo keu ?

アムド に ヤク が います か。

A: am do na yeuk yo keu。

アムド に ヤクは います。

①知っているはずなのに、わざと確認で聞く場合。わざと聞いて答えさせる場合。②例えば、アムドに行ってきた人に聞く場合（アムドにヤクはいましたか（見ましたか）。）

(10) Q: tashi tshang nga yeuk eu yo ?

タシさん 家 場所格 ヤク か います （タシさん以外の人に聞いている）

A: tashi tshang nga yeuk yo。

タシさんの家に、ヤクはいます。（自分の既知情報として伝える。）

相手が知っていることを確信して聞く場合。

(11) Q: tashi shang nga yeuk eu yo keu?

タシさん 家 場所格 ヤク か います

A: tashi tshang naga yeuk yo keu。

タシさん 家 に ヤク います。

この答えには2つの意味がある。

①相手が知っているかどうかは確信はしていないけれども、おそらく知っているだろうという前提で聞く場合。

②試験として聞く場合。聞き手が既知のものをわざと聞く場合。——例えば、幼稚園などで、タシさんの家とヤクを絵に描いて、その絵を見せながら、園児達に「タシさんの家にヤクがいますか」と聞くような場合。だから、いるかいないかを知っているタシさん自身には聞けないことになる（タシさんは知っているはずだから）。

(12) 「～のです」判断文。(cf. (8))

Q: tashi tshang nga yeuk yo ne eu reu?

タシさん 家 に ヤク か いるのです

A: tashi tshang nga yeuk yo ne reu.

タシさん 家 に ヤク いるんです

(13) 質問への回答に、これら3形式を使用した場合の答え方。例文として提示する「子供が3人いる」では、3ついずれの形式も使えるが、意味合いが少しずつ異なる。

- ① yo 以前から知っている情報を答える。
- ② yo keu 例えば過去に1回知っていることや、あるいは、経験知として一度知った情報として答える。
- ③ yo ne reu 判断文。「あの部屋に子供が3人いるのだ。」(あの部屋は汚いが、なぜかと思っていたら、「部屋に3人いるのだ。」だから、汚いのだ。)

※所有文としても使用できる。「彼には子供が三人いる。」

Khong nga ceu na sha yi sseun yo neu re (?).

部 屋 あ の に 子 供 住 む あ る ン デ ス。(あの部屋には子供が3人いるんです。)

(14) 例えば、幼稚園などで、わざと聞くような場合には、存在文の基本的な3形式は以下のようなになる。「彼に3人子供がいる。」の場合。

① yo. 以前からの知っている情報(既知)として伝える。

子供が3人いるよ。(そのことを以前から知っている)

keu 'ge sha yi sseum yo.

彼 は 子供 3人 ある。

② yo keu. 経験知(一回見たことがある。以前から知っているのではない)

子供が3人いる（のを見たことがある）。

keu 'ge sha yi sseum yo keu.

彼は 子供 3人 あるんです。

③ yo ne re. (前後の文脈を前提とする場合)

子供が3人いるんですよ。

keu 'ge sha yi sseum yo neu re.

彼は 子供 3人 あります。

例えば、離婚した話をしていて、生活に困っているようだ、子供がいるからね。子供は何人いるの？「子供は3人いるのだ」。だから、たいへんなようだ。というように、何らかの前後の文脈を想定させる言い方である。

上記までの内容を、否定表現とも対照させて簡略にまとめると、次の表 (15) のようになる。

(15)

	肯定	意味	否定	意味
1	yo	既知	me	ない・いない
2	yo keu	経験知	me keu	見えない・見たことがない。
3	yo neu reu	判断	yo nue ma reu	否定判断（ないのだ。（～の理由で）ないのだ。）

1、「yo」

1-1、肯定文の場合、

「既知」の情報を伝える。基本的に1人称。

nga tsheug dzod zeug yo. (私には辞書があります)

私 辞書 1つ ある

第三者の情報を伝えるとき、その情報が「既知」の情報として伝える。

Kheu tshang nga za tshang sum yo. (彼のうちに家族三人いますか)

1-2、疑問文の場合

①相手の情報を聞く場合。その相手は2人称であり、相手にとっては「既知」の情報

kyho tsheug dzod zeug eu yo. (私には辞書があります)

②相手に第三者のことを聞く場合、相手が第三者のこと知っていると確信して聞く、つまり、相手の「既知」の情報を聞く。

Kheu tshang nga za tshang teu yo. (彼のうちに家族何人いますか)

2、「yo keu」

2-1、肯定文の場合、

発見した情報を伝える。

kho tsheug dzod zeug yo keu. (彼に辞書があります)

彼 辞書 一つ ある です

次のように発話者と主語が一致する場合、非文になる。発話者にとって自分のことは「既知」の情報であるから非文となる。

× nga tsheug dzod zeug yo keu. (私には辞書があります)

2-2、疑問文の場合

①相手に第三者の情報を「未知」の情報として聞く場合。

Keu'ge tsheug dzod zeug eu yo keu. (彼には辞書がありますか)

相手の情報を直接聞く場合、非文となる。

× Khe ka tshang nga za tshang teu yo keu. (あなたのうちに家族何人いますか)

3、「yo neu reu」

文の前後に関連付ける場合に使う。

3-1、肯定文の場合、

kho tsheug dzod zeug yo neu reu.

彼 辞書 一つ ある です (彼に辞書があります)

nga tsheug dzod zeug yo neu reu.

私 辞書 一つ ある です (私に辞書があります)

kyho tsheug dzod zeug yo neu reu.

あなた 辞書 一つ ある です (あなたに辞書があります)

3-2、疑問文の場合

疑問文の場合も文の前後に関連付ける場合に使う。人称制限がない。

kho tsheug dzod zeug yo neu eu reu. (彼に辞書があります)

nga tsheug dzod zeug yo neu eu reu. (私には辞書があります)

kyho tsheug dzod zeug yo neu eu reu. (あなたには辞書があります)

少し 寒い

12、暖かいです。—————tro geu
暖かい

13、熱いです。—————tsheug keu
熱い

14、とてもおいしい。—————shi geu sheum geu
とても おいしい

15、とてもいい。—————shi geu hra geu
とても いい

16、お食べなさい。—————sso
食べなさい

17、もう（お腹）いっぱいになりました。—— ta 'gyak tha
今 いっぱいになる (過去)

18、お飲み下さい。—————thong
飲みなさい

19、もう要りません。—————ta meu 'go
今 ない 要る

20、もう酔ってしまいました。—————ta zeu tha
今 酔っ払う (過去)

21、のどが渴きました。—————'kom geu
(のど) 渴いた

22、お腹がすきました。—————'tok keu
お腹が すいた

- 23、疲れました。—————che tang tha
疲れ（過去）
- 24、分かりました。—————xi tha
分かる（過去）
- 25、分かりません。—————meu xi geu
ない 分かる
- 26、とても楽しかったです。—————shi geu sso tha
とても 楽しい（過去）
- 27、トイレはどこですか。—————'co khang kang re
トイレ どこ です（か）
- 28、写真を撮りましょう。—————hwa len
写真 撮る
- 29、一緒に撮ってもいいですか。—————nyam khe lang na eu chok
一緒 撮る（過去）ば（疑問） けっこう
- 30、また来ます。—————ta wo ra yong gyi
また も 来る（意志）

注

- 1) 聞ききの最初の日付は2節中に記した通りであるが、各項目とも2006年12月まで各々数度にわたって確認と加筆が加わっている。聞ききによる言語調査は、継続を予定してはいたが、タシツリン氏もご自身の博士論文の研究（日本語との対照研究）が多忙となり、また、次第に氏ご自身での記述にも関心が生じてきているので、現在は休止中である。記録を埋もれさせるのも惜しまれたので、部分的で不十分なものながら、公表しておくこととした。微意ご理解いただければ幸いである。

参考文献

海老原志穂 2005 「アムドチベット語・共和方言の音韻論—農区方言と牧区方言の比較研究—」日

本西蔵学会会報 第51号。

海老原志穂 2006「チベット語アムド方言の従属構文（NI節による）における名詞句指示」『思言』：東京外国語大学記述言語学論集第1号 3-30。

付記

- (1) 本稿は、アムド方言母語話者であるタシツリン氏への安部の聞き書き記録による。①②は付記(3)の謝金による。③では本人の希望もあり、本人の記述も含めることで、それをもって名前を併記することとした。
- (2) 長嶋善郎先生の御指摘によって説明を加筆したところがある。また、③存在文については、草稿を一度、新居田純野氏（台湾・大葉大学助理教授、日本語存在文専攻）にお読みいただきご助言いただくことがあった。明記して感謝申し上げます。
- (3) 本稿は次の研究成果の一部でもある。平成15-17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「言語成層論モデルによる日本語とモンsoon・アジア地域の言語史に関する基礎的研究」（課題番号15520298、代表者：安部）

表 A アムド方言の音韻表記法と国際音声字母との対照表（2006年版）

（タシツリン氏作成）（チベット文字部分省略）

〈1〉子音：

1 /ka/	[ka]	33 /pa/	[pa]
2 /kha/	[k ^h a]	34 /pha/	[p ^h a]
3 /'ka/	[^ʰ ka]	35 /'pa/	[^ʰ pa]
4 /ga/	[ⁿ ga]	36 /ba/	[ⁿ ba]
5 /'ga/	[fi'ga]	37 /'ba/	[fi'ba]
6 /nga/	[ŋa]	38 /ma/	[ma]
7 /'nga/	[fja]	39 /'ma/	[fi'ma]
8 /ca/	[ca]	40 /wa/	[^ʷ wa]
9 /c ^h a/	[c ^h a]	41 /tsa/	[tsa]
10 /'ca/	[fi'ca]	42 /tsha/	[ts ^h a]
11 /ja/	[ⁿ ɕa]	43 /'tsa/	[htsa]
12 /'ja/	[fi'ɕa]	44 /dza/	[ⁿ dza]
13 /nya/	[ɲa]	45 /'dza/	[fi'dza]
14 /'nya/	[fi'ɲa]	46 /sha/	[ca]
15 /kya/	[k ^j a]	47 /zha/	[fi'za]
16 /kyha/	[k ^h a]	48 /xa/	[xa]
17 /'kya/	[^ʰ k ^j a]	49 /'xa/	[ya]（一音節目に出ず、該当文字なし）
18 /gya/	[ⁿ g ^j a]	50 /sa/	[s ^h a]
19 /'gya/	[fi'g ^j a]	51 /'sa/	[hsa]
20 /ta/	[ta]	52 /za/	[fi'za]
21 /tha/	[t ^h a]	53 /ya/	[ja]
22 /'ta/	[hta]	54 /'ya/	[fi'ja]
23 /da/	[ⁿ da]	55 /ra/	[fi'ra]
24 /'da/	[fi'da]	56 /la/	[la]
25 /na/	[na]	57 /'la/	[fi'la]
26 /'na/	[fi'na]	58 /hla/	[ɬa]
27 /tra/	[ta]	59 /ha/	[ha]
28 /trha/	[t ^h a]	60 /'ha/	[ha]（該当文字なし）
29 /'tra/	[^ʰ ta]	61 /hwa/	[h ^w a]
30 /dra/	[ⁿ ɕa]	62 /va/	[va]
31 /'dra/	[fi'ɕa]	63 /fa/	[fa]
32 /hra/	[ɕa]		

〈2〉母音：

1 /a/	[a]	4 /eu/	[e]
2 /i/	[i]	5 /e/	[ε]
3 /u/	[u]	6 /o/	[o]

〈3〉末子音：

1 /-k/	[-k]	6 /-p/	[-p]
2 /-g/	[-ɣ]	7 /-m/	[-m]
3 /-ng/	[-ŋ]	8 /-r/	[-r]
4 /-t/	[-t]	9 /-l/	[-l]
5 /-n/	[-n]		

表 B 音節等一覧表 (タシツリン氏作成)

子	音韻	ka	kha	'ka	ga	'ga	nga	'nga		
	音韻	ca	cha	'ca	ja	'ja	nya	'nya		
	音韻	kya	kyha	'kya	gya	'gya				
	音韻	ta	tha	'ta	da	'da	na	'na		
	音韻	tra	trha	'tra	dra	'dra	hra			
音	音韻	pa	pha	'pa	ba	'ba	ma	'ma	wa	
	音韻	tsha	tsha	'tsha	dza	'dza				
	音韻	sha	zha	xa	'xa	sa	'sa	za		
	音韻	ya	'ya	ra	la	'la	hla			
	音韻	ha	'ha	hwa	va	fā				
母音	音韻	a	i	u	eu	e	o			
末子音	音韻	-k	-g	-ng	-t	-n	-p	-m	-r	-l

チベット語アムド方言（アムド・チベット語）の文法略述三題 ——①敬語、②叙述の助動詞「～デス」、③存在文——

安部 清哉（タシツリン氏協力）

本稿は、チベット語の研究でも、研究情報がいまだ乏しいチベット語アムド方言の文法に関する基礎的聞き記述である。アムド方言に関する研究は始まったばかりで、論文が少ない現時点では基礎的記述であっても、内省力の高い話者による聞き調査は貴重である。報告内容は、文法の①敬語・謙讓語、②叙述の助動詞「～デス」、③存在文の3項目である。④として日常挨拶言葉集を添える。言語情報は、母語の内省力も高く、かつ、言語学の知識もあり（日本語学専攻）、日本語での解説も自由にできるアムド方言母語話者（タシツリン氏、学習院大学大学院生）による。

キーワード【チベット語 アムド方言 文法 敬語 存在文】

On some Grammatical Topics Concerning the Amdo-Tibetan language
: ① honorification, ② nominal predicative sentence, ③ existential sentence

Seiya ABE

This paper describes research on the grammar of the Amdo dialect of the Tibetan language. There is little preceding research about the Amdo dialect. Therefore, even such a basic investigation as is described here is valuable. The contents of the paper address the following three points regarding the grammar of the Amdo dialect; ① honorifics, ② nominal predicative sentences ‘ \sim desu’, ③ existential sentences. In addition, examples of conversation in daily life are added as ④. Information about the Amdo dialect is provided by Mr. ZHA XI CAI RANG, whose native language is the Amdo dialect.

Key Words: Tibet language, gammar, honorification, existential sentence, Amdo Tibetan